

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年11月5日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	9月の価格情報		10月の価格情報		11月の価格情報		10月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	11月の主産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格						
		下旬		月上旬	月中旬							
葉茎菜類	キャベツ	77.90	74 (95%)	77.90	82 (105%)	74 (95%)	72.93	・13,371t (112%)	千葉(32)、茨城(25)	→	千葉産は、台風24号の影響により一部に塩害がでていることに加え、気温の低下により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。茨城産は、台風24号の影響により一部に根傷みが発生して生育は遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 群馬産の切り上げに伴い10月下旬から徐々に値を上げて現在平均を上回る価格は、千葉産及び茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		88.91	78 (88%)	88.91	87 (98%)	77 (87%)	76.91	・4,949t (117%)	愛知(39)、茨城(29)			
	たまねぎ	81.54	91 (112%)	81.54	90 (110%)	90 (110%)	81.54	・6,691t (81%)	北海道(95)	→	北海道産は、収穫作業は終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により産地によって作柄にバラツキがでているものの、総じて平年作であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		81.54	95 (117%)	81.54	96 (118%)	95 (117%)	81.54	・3,240t (89%)	北海道(81)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	381 (133%)	136.25	460 (338%)	380 (279%)	136.25	・2,711t (100%)	青森(16)、茨城(13)、秋田(12)	→	青森産及び秋田産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、台風24号の影響により倒伏や折損により正品率が下がっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 青森産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		462.77	815 (176%)	467.01	780 (167%)	815 (175%)	467.01	・128t (72%)	香川(26)、徳島(20)			
	はくさい	86.06	112 (130%)	86.06	127 (148%)	82 (95%)	42.34	・9,705t (105%)	茨城(81)	→	茨城産は、台風24号の影響により一部に根傷みが発生している中、最近の好天により回復傾向にあるものの、小玉傾向になっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、11月から平均価格が下がる中、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		88.72	114 (128%)	88.72	132 (149%)	80 (90%)	55.95	・4,942t (96%)	茨城(63)、長野(25)			
	ほうれんそう	583.95	633 (108%)	423.62	704 (166%)	631 (149%)	423.62	・684t (88%)	群馬(32)、茨城(26)	↘	群馬産及び茨城産は、10月上旬までの曇天で生育は遅延していることから、現在の出荷は平年を下回っているものの、最近の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。	
		670.86	844 (126%)	507.91	817 (161%)	774 (152%)	507.91	・243t (82%)	岐阜(48)、福岡(21)			
	レタス (結球)	158.27	142 (90%)	158.27	160 (101%)	157 (99%)	143.63	・3,726t (104%)	茨城(65)、長崎(10)	→	茨城産は、外葉に傷みが出て正品率が下がっていることから、現在の出荷は平年を下回っているものの、最近の好天で肥大が進んでいることから、今後は平年並みの出荷の見込み。長崎産は、台風の影響で根が傷んでいる可能性はあるものの、概ね順調な生育であることから、平年並みの出荷の見込み。 長野産の切り上げに伴い10月に入って徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、茨城産及び長崎産の出荷が平年並みと見込まれることから、11月から平均価格が下がる中、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		152.57	159 (104%)	152.57	178 (117%)	167 (109%)	154.61	・1,082t (99%)	兵庫(36)、長崎(32)			
果菜類	きゅうり	232.28	344 (148%)	289.03	355 (123%)	377 (130%)	289.03	・3,500t (93%)	埼玉(30)、群馬(24)	→	埼玉産及び群馬産は、台風24号の影響により病害が発生しており、また、無加温の作型の切り上げが早くなることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産及び群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		244.44	354 (145%)	298.96	393 (131%)	403 (135%)	298.96	・771t (83%)	宮崎(32)、佐賀(25)			
	トマト (大玉)	265.08	424 (160%)	364.78	410 (112%)	392 (107%)	364.78	・3,474t (98%)	熊本(29)、千葉(20)	→	熊本産は、10月上旬までの曇天で花付きがやや悪いことに加え、生育も遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。千葉産は、10月中旬までの曇天で一部で落花したことに加え、病害も発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 熊本産及び千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		298.46	429 (144%)	371.67	455 (122%)	409 (110%)	371.67	・1,254t (105%)	熊本(55)、北海道(13)			
	なす	242.04	351 (145%)	301.00	343 (114%)	395 (131%)	301.00	・1,334t (83%)	高知(83)	↘	高知産は、台風24号の影響で擦れ果が発生し、正品率が低下していたことから、現在の出荷は平年を下回っているものの、最近の好天により生育は進んでいることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 関東産が台風24号の影響で切り上げが早まり、徐々に値を上げて現在平均を上回っている価格は、今後主産地が関東産から高知産に移行する中、高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
		232.81	389 (167%)	263.21	375 (142%)	400 (152%)	263.21	・440t (71%)	高知(40)、福岡(22)			
	ピーマン	276.76	412 (149%)	276.76	433 (156%)	431 (156%)	378.83	・1,082t (109%)	茨城(51)、宮崎(23)	→	茨城産は、10月上旬までの曇天で花落ちしていることに加え、中旬以降の気温の低下に伴って生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。宮崎産は、台風24号の影響で一部のハウスが倒壊したり、浸水被害で再定植になっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産及び宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		296.27	428 (144%)	296.27	450 (152%)	479 (162%)	371.29	・373t (98%)	宮崎(26)、鹿児島(25)			
	根菜類	だいこん	94.60	104 (110%)	67.55	99 (147%)	83 (123%)	67.55	・5,139t (113%)	千葉(55)、青森(18)	→	千葉産は、台風24号の影響により塩害が発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。青森産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
			90.60	104 (115%)	76.48	107 (140%)	92 (120%)	76.48	・2,183t (101%)	長崎(20)、鹿児島(14)		
		にんじん	123.08	194 (158%)	123.08	205 (167%)	193 (157%)	105.86	・4,617t (93%)	千葉(50)、北海道(27)	→	千葉産は、播種後の強風による欠株や高温による品質低下に加え、台風24号の影響により塩害が発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。北海道産は、出荷終盤を迎える中、6月下旬以降の長雨・日照不足による生育停滞に加え、7月中旬以降の高温・少雨の影響で小ぶりになっていること等から、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産及び千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	123.11		192 (156%)	123.11	213 (173%)	195 (158%)	104.49	・1,720t (90%)	北海道(65)、長崎(26)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23~28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平均価格(平成25~29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.aic.go.jp/y-jy-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格情報		10月の価格情報		11月の価格情報		10月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	11月の主産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格				
いも類	さといも	280.27	302	232.02	302	287	232.02	・553t (103%)	埼玉(57)、千葉(12)	<p>埼玉産は、10月上旬までの曇雨天により生育が遅延していることから、現在の出荷は平年を下回っているものの、最近の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、7月中旬以降の高温・少雨により一部に生育が不良となっているものがあることに加え、9月以降の曇雨天により病害が発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。</p>
		242.12	316	228.44	347	330	228.44	・137t (99%)	愛媛(58)、福井(19)	
	ばれいしょ	117.36	112	92.33	113	109	92.33	・3,436t (85%)	北海道(98)	<p>北海道産は、収穫作業は終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。</p>
		117.36	107	92.33	106	104	92.33	・1,494t (93%)	北海道(75)	

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
 URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	9月の価格情報		10月の価格情報		11月の価格情報		10月中旬の東京及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	11月の主産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格				
洋菜類	ブロッコリー	384.87	498	286.55	479	459	286.55	・564t (114%)	埼玉(20)、香川(17)、愛知(15)	<p>埼玉産は、10月上旬までの曇雨天による病害は沈静化し、最近の好天で生育は回復していることから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。香川産は、台風24号による影響で根傷みが発生して生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。愛知産は、台風24号による影響で苗が流失したり、塩害が発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。</p>
		412.22	507	357.11	528	490	357.11	・201t (139%)	徳島(31)、北海道(19)	

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
 URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について
 貿易統計によると、平成30年9月の生鮮野菜の輸入量は、6万4千トン(前年同月比121%)となった。また、加工野菜は、14万5千トン(同98%)であり、野菜全体では、20万9千トン(同104%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で12万1千トン(同111%)と輸入量の58%を占めた。
 9月の生鮮野菜の輸入量は、6月下旬以降の長雨・日照不足や、7月中旬以降の高温・少雨の影響により国産野菜の出荷量が減少したことから前年を上回った。当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸入量が第1位のたまねぎは2万5千トン(同117%)、第2位のにんじんは1万1千トン(同196%)、第3位のねぎは6千トン(同122%)となった。たまねぎは、概ね順調な流通であり、例年並みの輸入であった。一方、にんじん及びねぎは、6月下旬以降の長雨・日照不足や、7月中旬以降の高温・少雨の影響により国産の出荷量が減少したことから増加した。
 今後の輸入量は、引き続き台風等の影響により国産野菜の品薄感があり、一部の品目で依然として価格が高水準であること、また、昨今の価格高騰の例を踏まえて、中長期的な輸入契約を締結している可能性もあることから、品目によっては増加傾向が継続すると思われる。

○輸出について
 9月の輸出量は、生鮮野菜は1,026トン(同59%)、加工野菜は1,471トン(同110%)となり、野菜全体では2,497トン(同81%)と減少した。
 当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸出量が第1位のながいもは、引き続き好調であり、輸出量は508トン(同208%)となった。主な輸出先第1位は、台湾、第2位は米国となっており、引き続き菜譜食としての評価が米国に渡り定着してきていると考えられる。一方、その他の品目では、前年が我が国で豊作傾向のため出荷量が増加したが、本年は7月中旬以降の高温・少雨で出荷量が減少したことから、多くの品目で減少した。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年9月) (単位:トン、%)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	130	53,298	71	64,333	121	
加工野菜	104	148,223	108	144,586	98	
野菜合計	112	201,521	95	208,919	104	
うち中国産野菜合計	112	109,052	87	121,390	111	
中国産シェア	59		54		58	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年9月) (単位:トン、%)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	117	25,197	中国	24,536	アメリカ	605	ニュージーランド	52
にんじん	196	11,288	中国	11,149	オーストラリア	113	アメリカ	21
ねぎ	122	6,015	中国	6,015	-	-	-	-
ごぼう	109	4,362	中国	4,338	台湾	24	-	-
ジャンボピーマン	85	2,617	オランダ	1,297	韓国	1,097	ニュージーランド	178
にんにく	113	2,126	中国	1,980	スペイン	120	アメリカ	25
ブロッコリー	111	1,867	アメリカ	1,698	オーストラリア	170	アメリカ	29
キャベツ	80	1,762	中国	1,750	アメリカ	9	オーストラリア	1

同(平成29年9月) (単位:トン)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	117	21,557	中国	21,398	アメリカ	133	ニュージーランド	26
にんじん	196	5,750	中国	5,633	オーストラリア	109	アメリカ	4
ねぎ	122	4,948	中国	4,948	-	-	-	-
ごぼう	109	3,999	中国	3,999	-	-	-	-
ジャンボピーマン	85	3,076	オランダ	1,924	韓国	1,058	ニュージーランド	70
キャベツ	80	2,213	中国	2,213	-	-	-	-
にんにく	113	1,874	中国	1,711	スペイン	119	アメリカ	24
ブロッコリー	111	1,675	アメリカ	1,558	オーストラリア	118	-	-

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年9月) (単位:トン、%)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	78	1,054	164	1,727	59	1,026
加工野菜	137	1,087	123	1,341	110	1,471
野菜合計	100	2,141	143	3,068	81	2,497

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年9月) (単位:トン)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	208	508	台湾	272	アメリカ	172	シンガポール	54
キャベツ等	108	108	香港	70	台湾	21	シンガポール	11
かぼちゃ	83	83	香港	68	シンガポール	12	台湾	3

同(平成29年9月) (単位:トン)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びシャロット	59	871	台湾	840	香港	28	ロシア	2
ながいも	208	244	アメリカ	130	台湾	96	シンガポール	14
キャベツ等	108	152	台湾	95	香港	42	シンガポール	11

資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料:財務省「貿易統計」)
 ※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
 ※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。